

講演会の続き 質疑応答編

1月30日に開催されました新春講演会 「放射線の何が問題か」 被曝と健康に関する
質疑応答編を記しましたのでご一読下さい。

Q1 半減期という表現は甘く感じられる。何年経つと安全になるということだろうから
安全期という表現方法に換えるべきだ。

A 放射性物質によっては短期間もあれば、長期間もあるので、半減期という言葉の使
い方はやむを得ない。希ガスは6日、よう素は8日、セシウム134は2年、セ
シウム137は30年。短期間のものはほとんどないだろうがセシウム137が
安全な状態になるには100年ぐらいかかる。

Q2 測定器の校正は正しく行われているのか。誤差はないのか。

またドライバー1本で操作できるなら恣意的な数値が出るのではないか

A 100台並べたらみな同じ数値かという10%ぐらいの誤差はある。

また校正は一般人にはできないので恣意的な数値はない。

所沢市では空間線量計は校正してないとのこと。

Q3 広島、長崎と福島との違いは

A 量、飛び方に大きな違いがある。

広島、長崎は空中で爆発させた。またエネルギーが短時間で大量に出るような構
造になっていた。総量は福島の200分の1ぐらいらしい。しかしひろく、薄く
拡散されたので人体への影響が福島とは違っている。

今後のことを考えると福島は長期化するだろう。

Q4 市民放射性物質の測定が完成した。昨年11月の環境美化デイで測定を実施したら
10,000ベクレルと高い数値が検出された。市役所に報告したら、除染しその
土壌は市役所の敷地内に保管されている。またこうした事実を公表していない。
環境美化デイには多くの市民がマスク、手袋だけで土壌を触れている。これでよい
のでしょうか

A 民間のそのような施設ができたことは大変良いことです。市役所でも10,000ベ
クレルは知っていました。

天然ウランからカリウムが検出されているケースはきくし、また他の自治体でも土
壌から高い数値が検出されている。

行政が欠けていることを市民が行うことは大切なことです。

Q5 がんの発症は年齢差による影響はないのか、またいつごろ発症するのか

A 年齢の低い人ほど発がん率は高まる。乳幼児、だけでなく成長過程の年齢の人は細
細胞が活発なので影響は大きい。

いつ発症するかは現在わかっていない。

- Q6 ムラで反省している人はどのくらいいるのか
- A 政府、官庁、学者、電力会社、企業等で推測だがわずかにとどまっている。周りには脱原発と発言している人もいるが少数です。
原子力規制委員会を監視しようという動きもあり市民が立ち上がっているが、まだまだ少数です。パブリックコメントも募集するので、いつでも相談にのります。
- Q7 使用済み核廃棄物の処理はどうするのか
- A 現在、青森県六ヶ所村に再処理工場が出来、各地から集められ、溶かし、分離し使用できない高レベル廃棄物地層500メートル深く処分している。100年から200年監視し続ける。
核種によっては1万年、2万年経過しないと危険性が限りなくゼロにならない物質もあるが、それらを地層に埋めて大丈夫なのか。
20,000本溜まった使用済み核燃料は地下に埋めないで負の遺産として、人間が最終処分場を管理せざるをえないでしょう。
- Q8 原発のコストには騙された。キロワット6円だの8.9円だの言ってたが、そこに安全対策費を組み入れたら一体発電キロワットはいくらなのか
- A 廃炉費用、高レベル廃棄物の処理費、故障費、賠償金などの費用計算は政策的にはじき出された金額で、一部の学者などの試算とでは大幅に乖離していた。

以上が約30分近くの質疑応答の内容です。まだまだ質問したい聴衆もいたようです。いずれにしても関心が高いからこのように多くの意見、質問があったと感じました。